



人質 韓国トップスター誘拐事件

2021年/韓国映画
配給: ツイン/94分

2022 (令和4) 年9月17日鑑賞

シネ・リーブル梅田

監督・脚本: ピル・カムソン
出演: ファン・ジョンミン/
イ・ユミ/リュ・ギョ
ンス

みどころ

なんともショッキングなタイトルの映画だが、これはドキュメント？それともドッキリ？戦後ずっと平和と民主主義を享受してきた日本ならともかく、金大中の拉致事件が起きた韓国なら、ひょっとしてこれは現実？

ファン・ジョンミンが“1億俳優”と呼ばれているのは、彼の主演作の累計観客動員が1億人を超えているため。しかし、アーノルド・シュワルツェネッガーやシルヴェスター・スタローンのような肉体派ならともかく、演技派のファン・ジョンミンは、本作でどんな活躍（活劇）を？そして、“人質”にとって演技力はいかなる武器に？それを、本作でしっかり確認したい。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

◆韓国のトップ俳優を1人挙げろ、と言われると、私は『バイビー・ブローカー』（22年）等のソン・ガンホだ。しかし、主演作の累計観客動員が1億人を超え、“1億俳優”と呼ばれているファン・ジョンミンもソン・ガンホと並ぶトップスターだ。

私が彼を見たのは、『国際市場で逢いましょう』（14年）（『シネマ36』58頁）や『哭声/コクソン』（16年）（『シネマ39』195頁）の中でだが、そんなトップ俳優が誘拐されたら・・・？野党の大統領候補だった金大中が拉致されるという信じられない事件が起きた韓国なら、そんなこともひょっとして現実に・・・？

本作冒頭、タイトル通りの韓国トップスター、ファン・ジョンミンが公式の記者会見をこなした後、マネージャーや行きつけのコンビニの店員に対して、意外に(?)親しみやすいプライベートな一面を見せながら、ちょっとした単独行動(?)に移る姿が描かれる。そりゃ、誰だって息抜きは必要。しかし、折り悪しく、本作冒頭のそんな一人ぼっちの場面で、ファン・ジョンミンは身代金目当ての凶悪な誘拐犯の手に落ちてしまうことに。ひょっとして、これはドキュメント？それともドッキリ？

◆俳優は演技力が命。そうすると、誘拐される映画なら、誘拐被害者の役をしっかりと演じなければダメ。そう思うが、映画は脚本に基づいて作られるものだし、俳優はそれを演

じればいだけだから、ある意味で楽。しかし、いきなりノー脚本で誘拐の被害者役を演じろと言われても・・・？

事態が十分飲み込めない中、誘拐犯のボス、チェ・ギワン（キム・ジェボム）やその支配下のヨム・ドンフン（リュ・ギョンス）から“タメ口”を厳しく叱責されたファン・ジョンミンは、以降、従順な被害者になってしまうの？すでにギワンたちに誘拐され、SNSでも大きく報じられていた先輩（？）の誘拐被害者であるパク・ソヨン（イ・ユミ）たちは、怖さのあまりそうになっていたが、演技力を誇るファン・ジョンミンは、こんな状況下でもその演技力を活用することができるの？それがドッキリ（カメラ）ではなく、脚本付きの一本の映画として本作を成立させている所以だが、さて、その出来は・・・？

◆本作は主犯のギワンが当初から登場し、その残忍さを先輩の被害者やそれに続く被害者ファン・ジョンミンのみならず、共犯者仲間の間でも冒頭から示していく。また、本作は、ギワンがなぜ刑務所に入っていたのか？いつ出所したのか？等にも簡単に触れつつ、ギワンをファン・ジョンミンや警察の“好敵手”と位置づけたから、それに沿って2時間のドラマが進行していく。新聞批評では、このギワンを“知能犯”と表現しているものもあるが、私の目にはこのギワンの頭の悪さが目立つ。さらに、女性刑事のエコたちを含む警察陣もギワンに引き回されていくだけだから、これでは本作に見る韓国の警察の能力も心配だ。もっとも、その分、本作の誘拐事件がドッキリではないと理解した後のファン・ジョンミンの腹の据え方と脚本なき中での彼の演技力が冴えていくので、それに注目！

他方、私が納得できないのは、アーノルド・シュワルツェネッガーやシルヴェスター・スタローンのような体力、腕力を誇る肉体派俳優ならともかく、ファン・ジョンミンのような演技派俳優がさまざまな場面で見事な格闘戦を見せたり、痛めつけられ、傷つけられているにもかかわらず、べらぼうな体力を見せつけることだ。これは、いくらなんでもやりすぎでは・・・？

◆本作中盤では、ちょっとした隙をついて、パク・ソヨンと共に監禁状態から逃れ、アジトを脱出したファン・ジョンミンが、やっと探り当てた民家に助けを求めるシーケンスが登場する。そこで、私を含めた多くの観客はひと安心するわけだが、近時の面白い韓国映画がそこでハッピーエンドになるはずはない。ファン・ジョンミンに対して、「携帯は持っていないから、奥の電話を使え」と教えたこの民家の主は一体何モノ？

そんなスリルとサスペンス（？）を含め、本作に見るファン・ジョンミンの逃走劇と、警察による犯人たちの追い詰め作戦の展開はそれなりに面白い。しかして、クライマックスに見るアジト爆破シーンは、いかなる状況で登場し、ファン・ジョンミンたちはそこから無事に救出されるの？それをしっかり確認すると共に、本作では“それから2年後”という、ラストの短いストーリーを本作の“ひねり”としてしっかり確認したい。

2022（令和4）年9月23日記